

村上地域における「つきあかり」の多収穫栽培ごよみ



目標の収量構成と品質	
目標収量	660kg/10a
穂数	400本/m ²
1穂粒数	85粒
m ² 当り粒数	34,000粒
登熟歩合	81%
千粒重	24.0g
玄米タンパク質	6.5%

栽培のポイント

- (1) 健苗育成 : ①育苗日数は20日程度(加温20日、無加温25日)
②播種は4月10日以降に実施
③千粒重大きいので、播種量は乾粒165g/箱程度
④5月上旬の移植
- (2) 適正茎数確保 : ①1株苗数5本程度で植え、早期茎数確保
②茎数がとれにくい品種のため栽植密度は60株/坪以上
③基肥窒素量は、分施で7kg/10a、全量基肥で13kg/10aをめやすとし、高地力ほ場は倒伏しやすいので減肥
④中干し・溝切りを徹底し、根の健全化と茎質向上
- (3) 登熟向上 : ①1回目の穂肥時期が幼穂形成期であるため、幼穂確認と遅れない穂肥
②出穂期頃までは葉色(SPAD値)40以上に保つ
③登熟歩合が低下しやすいので、生育のめやすを大幅に超える場合は穂肥控える
④出穂前後25日間は飽水管理とし、田面を乾かさず地力窒素の発現を促進
- (4) 病虫害防除 : ①いもち病の箱処理剤使用
②いもち病とカメムシ類の同時防除
③紋枯病の発生量に応じた適期防除
- (5) 胴割れ発生防止 : ①刈り遅れしない適期収穫
②刈取水分に応じて乾燥温度を調節
- (6) 土づくり : ①稲わらの秋すき込み
②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

基本は「適正生育量の早期確保」と「登熟の良い稲づくり」

